



# 慶祝新春

明けまして  
おめでとうございます



## 新年号

発行所 普門山 林泉寺  
三戸町斗内字 寺牛25  
〇一七九  
二五―二八五〇  
啓誠

「一年の計は元旦にあり」とよくいいますが、昨年の元旦は、どの様な思いで迎え、そして今年は何もしたいこれもしたいと考え・・・今年元旦はどうなのか、今年こそは・・・と、思い起こして比べてみた方はおいででしょうか。誰だかわかりませんが、こんなことを言っていた人がいました。「あなたの夢はどんな夢？」と聞かれて即座に答えられる人は、全く答えられない人よりは、

その時点で何%かは夢が叶っているそうです。残りの何%かは、本人の夢への思いと努力だそうです。なるほど解る気がしませんか。いくつになっても夢は見続けたい、追いつきたいものです。少し話題がそれましたが、「一年の計は元旦にあり」というのは、(事をうまくやるには、計画をたてなければならぬ。それには時期があつて時期を過ぎるとは役に立たぬ)ということ

ですが、この前にこんな句があるのをご存知でしたか、「一日の計は朝にあり」というのです。一生は一年、いや一ヶ月、いや一日、いや一時間、一分一秒の積み重ねです。「いま、いまという間にいまぞ無し、いまという間にいまぞ過ぎゆく」今を大事にしたいものです。本年も檀家の皆様より、昨年以上のお力添えをいただき、精進していきたく思います。どうぞよろしくお願いたします。檀家各位のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



「林泉寺だより」お盆号でお知らせしました青森市の郷土

我が林泉寺の木彫像(他)がたくさんあります。



青森県立郷土館(美術館)

館で開催された、「妖怪展」で見事責任を果たした当寺の木彫像達が凱旋しました。私も行ってききましたが、目をみはる、おもしろい、びっくりするような展示物(幽霊画、天狗・人魚のミイラ、ものけ録、鬼面、異物図、十王図、そして



見れなかった人の為に郷土館発行の「展示図録」が有りますので、見たい方は申しつけてください。お見せいたします。

左の写真は、三戸郷土資料館・県立郷土館に展示になった木彫像全てが揃ったところです。本堂に入って、廊下の突き当たり説明文を添



えて安置しています。来山の際はどうぞ「ご苦勞様でした」と声をかけ、労をねぎらって下さればうれしいかと思います。



正月だからといって、自然の景色が新しくなるわけでも、急に春めいて、めでたくなるわけではありません。正月がめでたいのは、新しい年のはじめだからです。めでたいと思う気持ちの中には、み仏や神の恵みがありがたく思い、人だけでなく、山や川、また草や木、鳥や獣、およその世にあるすべての存在に、その恵みは目の光のように注がれていると感じるはずでしょう。ある歌人の遺詠に、  
ありがたし  
今日の一日も  
わが命  
めぐみたまへり  
天と地と人と  
という歌がありま  
す。天地人は宇宙間  
に存在する万物のこ  
とで、そのめぐみへ  
の感謝が力強く詠わ  
れています。

「典座教訓」に学ぶ(2)



「五観の偈」 食事のお経

シリーズで、お経・偈文などの意味を少しづつ解説していきます。たいと思います。

今回が第二弾です。まず最初に、我が曹洞宗の開祖道元禪師が説かれた「典座教訓」という、食事を作る人の心得が書かれたものと、「起

でしよう。二つには、まごころを持って供養された、この食事をいただくに値するほどの正しい振る舞いや、世の為、人の為に役立つような行いをしているかどうか反省していただきます。

「百丈清規」といって禅院が創設され、日常生活の基準にいたるまで規矩を制定された百丈懐海禪師は94歳の天寿を全うするのですが、九十

の坂を越す年齢になっても清規の実践は欠かさなかったようです。若い修行僧も老僧も皆が作業することを普請作務といいますが、百丈懐海禪師という老僧も自ら作業道具をとって作務をなされました。

「五観の偈」

一つには功の多少を計り、かの来処を量る

二つにはおれが徳行の全欠を付て供に応ず

三つには心を防ぎ過を離るることは貧等を宗とす

四つにはまぎに良薬を事とするは形枯を療ぜんがためなり

五つには成道のための故に今この食を受く



ある日、老僧に對するいたわりの気持ちから禪師の用具をかくし、休息されるようまわりの人達が心配りをされました。しかし、この老和尚は自分の道具が無いと知ると、その日は終日何も食べなかつた。翌日になつてやむを得ず道具を出しておくと、禪師は機嫌よく働いて食事をとつたといふのです。「一日作さざれば一日食らわず」の一語はこの時の禪師の言葉です。人生生活の金言といわねばならぬ名言です。



この写真は、去年の9月7日に斗川小学校の校庭に着陸した、

間にあった!

ないのです。一粒の米でも遍く世界のいのちの実体であり、そこには多くの人の手数がかり、おおいなる自然の恵みがあるからです。一粒の米にも、我われの命とおなじ尊さがあるという、生活即禅という精神が家庭の中まで入っていた、ことわざといえます。生きることの絶対条件が「食」にあることをよく心したいものです。



ドクターヘリの活躍の様子です。急患の方にはほんとにありがたいことだと思えます。八戸市民病院までひとつとびです。でも、あまり乗りたくないですね、

「冷めないうちに」

「晋山式」

よく、「鉄は熱い内に打て」とか言いますけど、先の住職は三十五年目で、本堂の落慶に合わせて晋山式をしました。殆どの方は、落慶だけの事と思っただけです。お披露目は早い方が良く、との事で総代の方々と相談した結果、暫定的ではありますが、今年から数えて三年後ぐらいには私の晋

編集後記  
上りつばなしの山は無し、下がりつばなしの谷は無し、いつかは下がる、いつかは上る、裸り返し的人生でも一度きり……  
小坊

山式をしたいとの結論に至りました。そこで、檀家の皆さんの協力(ご寄付)無しでは成就できません。住職一世一代の大事事です。それと、庫裡の落慶もまだやっておりません。まだ協力頂けない方(未納)が十数人おりますが、晋山式迄には何とかお願いをして晴れて、一緒にしたいと思っております。さらに、位牌檀の無い方々が、現在40〜50人位います。無い方々の切実な願いを叶えるべく、位牌堂・位牌檀増設も考えております。詳細は後日ご説明致しますので、今回の慶事に合わせて、何とぞご理解、ご協力を賜ります様お願い申し上げます。